

一九九七年にこの念を結成し、東祖谷山村内、活動をはじめ、以来、年末始は、大甲を制作し、帰省して来る東祖谷出身の皆さんをお迎えしている。

二十五年も、継続して、大甲を作り、京上地区国道439号沿いに設置し歓迎しました。今年年始の恒例事業と並び今年も出来たかえしと大甲をかけたもらうたり、様々な評判もあつたりして、皆様方に愛されていくのを心願しました。



今年も大甲を迎える



今年の冬は、何年振りの大雪、といつても日本海側の様にのメートルという程でもない。雪がちらつく、何故か心がトキメク。そして、朝起きると一面、まっ白ひんこのほろろとした景色として見れば、美しい。白は黒より美しいと感じるからか、あるいは、突然の変化により、遠く世界に出会えるからだろうか。

まへこの物、おひらこのアキ缶も、道路の放置庫も、芸術作品のようになり、日頃気にならないうまのまどが、素晴らしいオブリエトになって美しい。

かど、祖谷で生活するといふと、雪の多いといふ言ひ言ひ言ひ言ひ。

雪は、始めが大変だ。グレンと気温が高くなるれば別だが、寒の入りの頃は、消えるどころか氷こしま、と始末が悪い。



三〇センチと積もれば、雨かきとくけい、車も走れなくなる。外の仕事をすすめる人達にとっては、寒の甲、雪との闘いとつこくま。喜こんだり、楽しんでいたりはい。

また、今年は、朝晩の冷え込みが厳しく、水道が氷って、パイプが破れ、水がストップがこまうトラアルが多発、二三人寄せれば、水は大丈夫かえしといふ話があるし、苦労して水しかけしをいなくとはいけなくこまう。

本当にやっかいなの、雪、なのです。それこそ、これが祖谷の冬なのです。この自然の変化と、どのように付き合っていく生活していくのか。

それが、人それぞれに課せられていふこの厳しい、冬の間に町で暮らす人も少なくなひ。

かど、多数の人は、当然ながら、冬を祖谷で暮らしていきま。雪とつきあひながら、当然ながら、ひとり暮らしのお年寄りといふすが、皆さん、いたって元気です。

雪の甲で冬を暮らすせば、春の、別の輝き暖かさが一段と心にしみま。早く来、ま